

平成28年度第1回 小牧市在宅医療・介護連携推進協議会

【日 時】 平成28年5月12日（木） 午後3時～午後4時40分

【出席委員】 浅井真嗣委員、磯村千鶴子委員、高木康司委員、千田由理委員、小島英嗣委員、渡邊紘章委員、菅沢由美子委員、大野充敏委員、岡田剛委員、志津志帆委員、久野達人氏（川合委員代理）、田中秀治委員、四宮貴美子委員、宮越晴美委員、瀬口幸恵委員、鈴木道子委員、高木大作委員、櫻井克匡委員、伊藤俊幸委員、大橋弘育委員

【欠席委員】 木全勝彦委員、川合直充委員

次第1 開会

○事務局

それでは、ただ今より平成28年度第1回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会を始めさせていただきます。

新年度となりまして、人事異動等により委員の変更がございましたので、ご報告させていただきます。小牧市介護保険サービス事業者連絡会訪問看護部会の宮下委員から志津委員へ、愛知県春日井保健所の山田委員から川合委員へ、小牧市健康福祉部保健センターの江崎委員から伊藤委員へ変更となっております。3名の委員の皆様、よろしく申し上げます。新任委員の皆さまの委嘱状につきましては、お手元に配付させていただきましたのでご了承ください。

本日、小牧市薬剤師会の木全委員は欠席されております。また、愛知県春日井保健所の川合委員の代理で久野様にご出席いただいております。

この会議は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針第3条の規定に基づきまして、本会議を公開とさせていただきます。本日は、1名の傍聴希望者がございましたのでご報告いたします。

それでは、本日の予定につきましては、お手元の会議次第のとおりであります。

議事の前に、お手元の資料を確認させていただきます。まず、事前にお渡ししたものといたしまして、次第1枚、資料1、資料3がございます。

資料2と委員名簿につきましては、机の上に置かせていただいておりますので、よろしく申し上げます。不足書類等ございましたら、事務局までお申し付けください。

さて、それでは、会の進行を浅井会長にお願いいたします。浅井会長よろしくお願ひいたします。

○浅井会長

皆さんこんにちは。本日は、在宅医療連携システムの説明があります。私のところでも一部の方とシステムを使って行っており、サンエイナーステーションの理学療法士の勝股がシステムについていろいろと研究を行っています。一応、僕が知る限り一番強いものですから、今日呼んであります。皆さん、よろしいでしょうか。

後半に関しては、皆さんにいろいろまた宿題みたいなものを出してありますから、その辺の話になってくるかと思しますので、よろしくお願いします。

次第2 平成28年度の実施予定事業について

○事務局

それでは、次第2の平成28年度の実施予定事業について、事務局から説明をさせていただきます。

恐れ入りますが、資料1をよろしくお願いいたします。

本日は、平成28年度第1回目の会議となりますので、平成28年度に市が実施を予定しております事業につきましてご説明をさせていただきます。

平成28年度は、主な事業といたしまして6点を予定しております。

1点目は、この在宅医療・介護連携推進協議会の開催です。平成27年度に引き続き、実務者レベルで課題を抽出し、その対応について検討し、具体化すること。また、関係者の顔の見える関係づくりに取り組み、在宅医療・介護連携の推進を図ってまいりたいと考えておりますので、委員の皆さんにはご協力をお願いいたします。

2点目は、ICTシステムの構築の準備です。こちらにつきましては次の議題にてご説明をさせていただきますが、平成29年度に整備ができるよう進めてまいりたいと考えております。

3点目は、市民アンケート、歯科・薬科・介護事業所アンケートの実施です。平成27年度には、2,000人の市民を対象に、かかりつけ医の有無や在宅医療・介護に対する認知度などに関するアンケートを実施いたしました。アンケートの調査結果につきましては、平成27年度の第3回の本協議会で配付をさせていただいております。平成28年度につきましては、引き続き市民アンケートを実施し、認知度などの推移を見てまいりたいと思います。また、歯科・薬科・介護事業所へもアンケートを実施し、現状把握や課題の抽出、資源マップの作成に役立てていきたいと考えております。内容や実施時期につきましては、今後検討してまいりたいと思います。

4点目の多職種・他業種連携研修及び5点目の市民向け講演会につきましても、平成26年度から開催しておりますので、引き続き連携の推進と在宅医療・介護を身近なこととして考えていただけるよう、普及・啓発に努めてまいりたいと考えておりま

す。既に日程が決まったものもございますので、その詳細につきましては、後ほどご説明させていただきます。

6点目は資源マップの作成です。3点目の歯科・薬科・介護事業所へのアンケートや、昨年度の課題でもありました、どこでどのような医療や介護サービスが受けられるのかをわかりやすくお示しできるように、資源マップを作成いたします。配布の対象者や掲載する内容などにつきましては、今後検討してまいりたいと考えております。

次第2につきましては以上であります。

○浅井会長

ありがとうございます。

ただいま説明がありましたけれども、何かご質問などある方は、よろしくお願いたします。よろしいですか。

(挙手する者なし)

次第3 在宅医療連携システムの事業者説明について

○浅井会長

それでは、次第3の在宅医療連携システムの事業者説明について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

昨年度の第3回当協議会におきまして、検討事項の進捗状況の中でICTの構築についての項目があり、次回の協議会で事業者より在宅医療連携システムについて説明会を開催するアナウンスをさせていただきました。

今回、在宅医療連携システムとして愛知県内で多数採用されております「電子@連絡帳」の事業者であります中部テレコミュニケーション株式会社様にご協力をいただいております。まずは、当システムについてご説明をさせていただき、その後、質疑等の時間を設けさせていただきます。

それでは、中部テレコミュニケーション株式会社様、よろしくお願いいたします。

(事業者説明)

○浅井会長

何かご質問などある方いらっしゃいますか。

○千田委員

同じ電子@連絡帳を入れていても、地区ごとに同意書や仕様が違えば、地域をまた

いでの互換性はないのでしょうか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

システムとしては、やりとりがいつでもできるようになっています。

4月に尾張東部医療圏が合意書をつくりました。こちらは5市1町で、2つの医師会が管轄しております。それぞれの自治体でネットワークを持っていますが、電子@連絡帳は、ネットワーク名を変えることによって、すぐにいろいろな先生方との連携がとれるようになっています。

ただし自治体では管理しきれなくなることもあり、相手方のネットワークから患者さんの支援チームに入ったり、支援チームを新しく立ち上げたりするときに、相手のネットワークのIDとパスワードの利用を申請し、複数のIDとパスワードを取得してやりとりを行います。例えば小牧市の先生が瀬戸市の患者さんに関わろうとすると、医療圏が違いますので、瀬戸旭も一やっこネットワークのポータルサイトから申請が必要になります。承認されて瀬戸旭も一やっこネットワークで使えるIDとパスワードを付与されますと、やりとりができるようになります。

ただし名古屋市だけは、セキュリティが高いものになっています。名古屋市はこの4月に16区揃いましたので、まず1年間は市内のみでの運用として、その後他市町との連携を考えていきたいということです。基本的には、各ドメインで運用していますし、皆さん連携しています。ここはちゃんと市長も交えて、同じ医療圏なら申請不要とする合意書をつくりました。北名古屋市などと連携をする場合でも、北名古屋市のポータルサイトから申請すればご利用いただけます。

○千田委員

具体的に費用はどのぐらいかかりますか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

ランニングコストは1市20万、町は10万としています。導入費用はかからず、月々のランニング費用のみで動かしています。その中に、勉強会や保守運用出張サービスも含まれます。セキュリティの様子を見ながら接続作業を行うなどのサポート費用も含まれているということです。バージョンアップのときも費用はかかりません。

○勝股氏

先ほどの千田先生の話の続きですが、各市町村でカスタマイズを非常にしているようで、そこがまさに将来的に壁になる可能性はないのですか。できるだけ統一化をするような努力をされているのですか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

電子@連絡帳は、全て厚生労働省の標準化のフォーマットでつくっておりますので、

カスタマイズをしているところではありますが、連携は全てとれます。また基本的な記事の投稿や3つのタグは変わりませんので、連携のための壁は今のところも今後もないと聞いております。

○勝股氏

書類のやりとりやアセスメントの際に各市町村で、使い方が変わることはありませんか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

それはあると思います。名古屋大学は県内全て一緒に運用したいのですが、それぞれの自治体でさまざまな考え方や費用の面もありますので、まずは連携を始めて、課題が見えてきた地域はカスタマイズを進めています。運用ルールなども先ほどの合意書のように、同一医療圏以外にも連携を進めていくことになると思っております。

○勝股氏

カスタマイズの費用はかかりますか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

はい。カスタマイズは費用がかかります。ただし、現在名古屋市が先行して大幅に医療従事者向けの部屋を充実させていっています。名古屋市と名古屋市医師会が他の地域でも同じものを使うことを了承していますので、そういった意味では、後発的な地域の方がよりバージョンアップされたものを安価にご利用いただけます。もちろん導入やその数も違いますので差はあります。

○勝股氏

瀬戸旭も一やっこネットワークは始めてから年数が経っていると思いますが、参加率はどの程度ですか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

瀬戸旭も一やっこネットワークは、瀬戸市と尾張旭市とに分かれています。ログインしたときに登録患者数や登録記事数が表示されます。サービス運用者から要望があれば、2カ月に1度ぐらい、データサーバーからダウンロードしたレポートを提出しています。レポートからは細かいことが分かりますが、私たちもその中では見えないうようになっています。

先日始まったところで、弥富市は多くの機関が登録しています。自治体の担当者からは歯科医師もほぼ入ったと聞いています。

○勝股氏

さっき出ていたのは、今までの累計の記事数ですか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

累計の記事数です。

○勝股氏

それが1万弱ということですか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

そうですね。2市でつくられているため正確にはわからないところがありますが、正式にはまだ3年目です。

弥富市の場合は、地域包括に海南病院が入っています。一斉に登録をしてもらって、海南病院とのやりとりですので、記事数がかなりあると伺っております。細かく数字が出せなくて申し訳ありません。

○大橋委員

すみません。こういったことはすごく苦手です。最初は二度手間になるのではないかとということで敬遠しがちだったという話でしたが、その後実際に使ってみてここがよかったというベスト5などがありますか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

まず先生たちがいらっしゃる前で申し訳ありませんが、介護や看護に携わる方の声としては、先生にこの時間に電話できないとか、お忙しいだろうということを気にせずに見ておいてもらいたいものを送ることができ、3、4日たって先生に再度確認の電話ができやすくなったことが一番です。どうしても先生たちがお忙しいことをわかっていらっしゃるので、介護や看護の方たちにとっては、先生が見守ってくださって、ありがとう、わかったよと一言書いてくれるだけで力が出ると言われます。

次に、ファックスの代わりにできる点が好評です。新城市などでは訪問看護向けのモデルも運用しています。新城市はすごく僻地で広いため、その都度ステーションに戻っていると、患者さんをたくさん回ることができません。そこでタブレットなどを持って現場に行き、そこで書類を書いたり直接打ち込んだりして情報をクラウドに上げていただきます。ある一定期間の会議のときにクラウドからおろして整理したり、印刷したりできるのが便利だというお声をいただいています。

あとは、少しですがファックスの通信費削減につながる点や、万が一なくしてももう1回ダウンロードして印刷ができる点などが挙げられています。

お得ということではないかもしれませんが、最近お問い合わせが多いのは、今回の診療報酬改定の追加加算についてです。こういったシステムが入っていると、HPKI、電子署名がなくても、メッセージや医療機関同士で今までCDで渡していたものを電子@連絡帳でやりとりするだけで追加加算の対象になりますが、自治体や医師会で用意していないと対象になりませんとお答えしています。他にも厚生労働省に出す書類

の書き方などについてお問い合わせをいただいております。

愛知県は早いのですが、それでもまだ始まったばかりです。ですので、こういうところで決めてから会議をしようといった動きでは、皆さん使われております。

○勝股氏

実際、某所で電子@連絡帳を使わせてもらったことがあります。厳しいことかもしれませんが、例えば電子証明書をインストールするにあたり、全くパスワードもかけていないウィンドウズに対してインストールして、アルファベット5文字だけのIDと、それと同じパスワードで設定されました。セキュリティ上、それはいかがなものかと思えます。

○中部テレコミュニケーション株式会社

基本的には、各自治体に電子@連絡帳を使ってもらうときには、誓約書や同意書を書面で出させていただきます。利用規約に則り、その自治体のセキュリティポリシーも守っていますので、その点が甘いのは、その自治体の事情があったかもしれません。基本的にはセキュリティが入っている端末に入れることはしないということは明記してあります。

パスワードについては、ご要望があればシステムで決められます。8文字以上で必ず数字や記号を入れろという条件もつけられますが、最初はとにかくスモールスタートで広げていきたいということから、おそらくその地域は簡単なものとしていたかもしれません。証明書についても、スムーズにダブルクリックで全部入るようなものになりました。

○勝股氏

最初のうちはダウンロードしてインストールという手間がありました。最終的にはセキュリティポリシーを守れないで起こった事故については、各自の責任ということですね。

○中部テレコミュニケーション株式会社

そうですね。その点は運用ルール次第になっていくと思います。名古屋市は230万人都市でいろんな人がいるということから、かなりセキュリティが高くなっています。実際にこのシステムで、医者以外は触れないようにする、患者の登録は医師会センター職員またはコーディネーターが許可した者に限る、などがあります。それは運用ルールで決めていただければ、電子@連絡帳は変わっていきます。連携の部分でご心配だと思いますが、それでも連携はできるようになっております。

○勝股氏

そのセキュリティ教育の点については、サポート業務外ということでしょうか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

いえ。説明会の内容として依頼していただければ対応いたします。また、概要の説明の後には操作説明会も行っており、実際に証明書をインストールする操作やセキュリティを確認していただく作業なども行っております。

○勝股氏

そのセキュリティ教育については、皆さんで集まって伝達講習みたいな形で行われるということですね。

○中部テレコミュニケーション株式会社

決まっておられません。ご依頼があれば、そのネットワークの方たちと打合せを行ったり、他の自治体の状況をお伝えしたりすることもできます。協議会に CTC がオブザーバーとして参加もさせていただいております。

○小島委員

基本的なところですが、その ID やパスワードは、個人単位で設定されるものか、施設単位なのか、端末単位なのかということをお教えいただきたいのですが。

○中部テレコミュニケーション株式会社

基本的には個人単位です。個人単位での登録の場合、画面には名前と顔写真が表示されます。ただし大きな病院の連携室などでは、個人ではなく病院名や連携室の名前で登録して、連携室の中で ID とパスワードを共有で使っているところもあります。

ただ、そういった場合でも、病院の代表者に利用規約を守って使う旨の書面を提出していただくことを前提にネットワークは稼働していますので、そういったところは小牧市ルールをつくっていただければ結構です。証明書も、誰の証明書かわかるようになっています。

ただし、実際に運用していく中でやりとりを重ね、利用規約も改正されています。最初のうちはこちらのメンバーの皆さまで実際に使っただきながら利用規約をつくっていくというのが基本的な流れにはなっております。

○小島委員

先ほど、海南病院発で利用者が広がったというようなことがありましたので、逆に病院の立場からすると、例えば地域連携室で1つの ID、パスワードとしておいて、そこを窓口にして情報を個々の医師に伝達する形が現実的ということでしょうか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

はい。中ではそういう動きをしているところもあります。その中でもコアになる先生や職員が自分たちでも個別で ID を持って、先生や訪問看護の方と直接やりとりすることもあります。

○千田委員

海南病院発で利用者が広がったということですが、SNSのような感じだと思うので、見て、確認して、返事を書くのには時間がかかりますよね。私はフェイスブックに10人ぐらいしか友達がいないでも、真面目に返事していると1、2時間かかります。そうすると、連携室に電子@連絡帳係のような常にそればかりチェックして、返信しているとすごく時間をとられるのではないかと思うのですが。

○中部テレコミュニケーション株式会社

もしそうだったとしたら大変ですが、海南病院の例では、市の地域包括ケア担当の方で一旦まとめて、そこから海南病院の地域連携室とのやりとりをしています。この地域では春日井市民病院でもご利用いただいておりますが、連携室の人がいつも見ているというよりは、在宅に戻られるにあたり、かかりつけ医も含むやりとりの中に支援チームの一員として入っています。それで、もし何かあって再度春日井市民病院に戻られるときに、経緯を見ることができるといった使い方が多くあります。

また、国立長寿医療センターなどがそうですが、キーになる先生や独自でやりとりが必要だと思っている先生たちが自分たちで入って、個別でやりとりしている場合もあります。患者さんによっても状況は異なると思います。

藤田保健衛生大学では、連携室で1人の女性が見ています。相談に答えるというよりは、経過を見るために利用されているようです。先生が一番運用しやすいルールや使い方を決めて、さらに相談したい内容やシステムのご要望を随時いただければと考えております。

○櫻井委員

メッセージが入ったらあらかじめ登録しておいた自分のメールアドレスにメールが入るような、アラーム機能はありますか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

はい、あります。

基本的には、先生方は忙しくて普段はあまりログインもされません。ただし、自分の関わる患者さんやプロジェクトに記事が投稿されたときや、支援チームのメンバーから外れたときも全部連絡が来ますので、そのときにログインして確認していただくことができます。

画面の中で赤く表示されているところがあります。次の訪問までに先生に必ず確認しておきたい重要な内容や緊急の内容を送るときに、重要というところにチェックを入れていただくと、アラートがメールで鳴るようになっています。もちろん、本当の緊急時には電話などを利用されると思いますが、例えばたくさん患者さんを受け持つ

ている先生が普段の通知は遮断していても、重要というところにチェックを入れていただくと、必ず通知が入ります。

○大野委員

接続の種類は、パソコンだけでしょうか。先生によってはパソコンでもタブレットでも、ときには 아이폰でも見るということも可能でしょうか。

○中部テレコミュニケーション株式会社

はい。ウィンドウズもマックも、アンドロイドも、タブレットや携帯、スマートフォンなどさまざまな媒体がありますが、 아이폰もアイパッドも証明書を入れて使えるようになっております。証明書は1人がいくつ発行しても、費用はかかりませんので、1人で何台も証明書を入れて使っている先生もいます。しかし、自分のIDとパスワードは1つです。例えば地域包括の端末で、1台を5人で使っているところは、証明書は1個ですが、5人が別のIDとパスワードで使うこともできます。

○浅井会長

ちょうど今、大野委員の質問は僕と全く一緒だったので、ありがとうございます。

まだ質問はあるかなと思いますが、時間になりましたのでここで区切らせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○中部テレコミュニケーション株式会社

どうもありがとうございました。よろしくお願ひいたします。

次第4 報告事項 ①現状の課題の検討状況について

○浅井会長

それでは、次第4の報告事項の1点目としまして、現状の課題の検討状況について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

前回の協議会で、医療・介護連携の推進に当たりまして、現状の課題として上げられたものについて、報告いただいた検討状況の内容を資料3に取りまとめさせていただいておりますので、ご活用いただければと思います。以上です。

○浅井会長

時間もありますので、進展したことなど何かありましたら、各委員から説明をお願いします。高木委員からお願いします。

○高木（康）委員

資料に1枚、横刷りで入れさせていただいておりますが、歯科医師会として往診の対応表がほぼ完成しております。個々の記載について、各先生に内容を再度確認して

いるところですが、このような形でお出しすることになります。左のあたりに書いてあるとおり、つけ加える項目の有無や医院に関する事、往診対応項目に関する事、それから名簿の掲載につきまして、歯科医師会では五十音順で作っていますが、使う方の利便を図ることを考えると市内全域で五十音順がよいのか、包括ごとに分類したうえで五十音順がよいのかご意見をいただきたいと思います。他のご意見やご要望などがあればそちらも教えていただきたく、本日出させていただきます。

特になければ、あとは歯科医師会で今回お出しするのが7月1日付になるのかどうか分かりませんが、1年に1回更新するということを考えております。でき上がり次第、どのような形で皆さんのお手元にお届けできるかも検討していきたいと思っております。

○浅井会長

短い時間ですので、すぐには言えないと思っておりますが、気付いたことがある方はお願いいたします。なければ、ほかの委員からはどうでしょうか。

○磯村委員

研修についてなんですが、日程が重ならないように調整が必要ということでした。サポートセンターでという話もありましたが、医師会の事務局では難しいという返事があり、どうしようかというところでした。現在は、サポート会議で社協の田中さんに暫定的にお願いしております。ありがとうございます。

○田中委員

関連してよろしいですか。

今の件ですが、任意団体なら動きやすいだろうということで、ケアマネジャーの会のホームページにスケジュール表という形で掲載しました。そこをクリックしていただくとエクセルベースのスケジュール表がダウンロードできるようにしてあります。

各団体の方々には、そこに書いてあるような内容を私にお知らせいただければ、こちらで書きかえをしていきます。暫定的には、スケジュール管理はそのような形でやっていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

もう1点、本日1人10枚ほどお渡しさせていただきましたが、病院と在宅との連携を考える研修会ということで、市民病院の地域連携室の菅沢室長と大野さんたちと相談をして、こんな研修会を今打ち出してみました。6月17日に行いますが、医療と介護の連携シートをできるだけ徹底して活用していこうということで、市民病院と第一病院から、やりとりの仕方の説明をいただきます。連携シートの書き方については包括から説明をする形で予定しております。

当初は、ケアマネと病院関係のみの参加でいいかという話もしていましたが、連携シートは病院とケアマネ、そして在宅のサービスにつながっていくものであるだろう

ということで、ご無理を言って会場を広くとりまして、より多くの方々に来ていただくと考えております。ですので、サービス事業所の方や医療関係の方にも、いつもやっている検討会のレベルで案内させていただきたいと思っております。

○浅井会長

ほかにどうでしょうか。

自分たちのやっていることとして、今話しておきたいことがありましたらぜひ。

○高木（康）委員

先ほどお話しさせていただきました歯科医師会の往診対応表について補足をさせていただきたいと思っております。ここでご意見をとってもすぐには出しにくいかもしれませんので、もしお聞きになりたいことやご意見などがありましたら、余白に書き込んでいただいて、今月中くらいを目途にファックスしていただけるとありがたいと思っております。診療室のファックス番号は76-1919です。ご意見をうかがって、できるだけ伝えやすいような形にしたいと思っております。

名簿の掲載順につきましては、そんなに選択肢はないと思っております。使う方の利便ということで、市内全域で五十音順がよければそうしますし、包括ごとに分類したうえで五十音順がよければそうしますので、ご意見のある方はファックスでお願いします。また、市役所や包括の方とも相談して決めていきたいと思っております。以上です。

○浅井会長

よろしいでしょうか。

次第4 報告事項 ②今後の予定について

○浅井会長

それでは、次第4の報告事項の2点目として、今後の予定について事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは、本年度開催を予定しております市民向け講演会と多職種連携研修会のうち、日程が決まりましたものについてご報告をさせていただきます。

市民向け講演会としまして、6月17日金曜日の午前10時より、小牧市民会館で開催されます小牧市立寿学園におきまして、浅井会長と磯村委員より、これからの在宅医療についてご講演をしていただきます。

この小牧市立寿学園には、毎回600名ほどの高齢者の方が参加されますので、今までになく多数の高齢者の方に在宅医療についての啓発ができると考えております。

また、多職種連携研修会としまして、7月21日木曜日の午後6時30分より、小

牧市公民館で開催いたします。内容につきましては、現在講師の方と調整をしております。詳細が決まりましたらご通知をさせていただきますので、ぜひともご参加していただきますようお願いいたします。

報告事項の2点目については以上であります。

○浅井会長

ありがとうございます。

次第としてはここまでですので、進行を事務局にお願いします。

○事務局

長時間にわたり活発なご意見をいただき、ありがとうございました。

今回は8月18日木曜日を予定しております。詳細は追ってご連絡をさせていただきますので、よろしくようお願いいたします。

それでは、これをもちまして平成28年度第1回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会を閉会させていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございました。